



【窪塚洋介が大絶賛したものを、GACKTが猛烈に突っ込む、話題の新刊『ワルあがき』4月3日発売！！】

小説？ 実話？ 名だたる著名人が推薦する、北里洋平著『ワルあがき』とは？

「諦めることを諦めた」主人公が、人生という物語を通してぶつかる様々な葛藤や問題を、「キング」が教えてくれるヒントを手掛かりにクリアしていく、活字と漫画が融合した、冒険活劇のようなストーリー仕立ての新感覚【自己啓発書】『ワルあがき』が全国書店で発売が開始されます。

インパクト抜群である、この本の漫画・キャラクターデザインを担当したのは『軍鶏』『リバーズエッジ大川端探偵社』などの作者 たなか亜紀夫さん。半透明の表紙には箔押しで、世界を舞台に活躍する書道家、憲真氏のダイナミックな題字。窪塚洋介さんやGACKTさんの推薦コメント。コラボ、と言うにはあまりに豪華な面子に加え、日米同時発売、応援クラウドファンディングがわずか数日で目標達成、など話題が尽きない『ワルあがき』が、ついに発売される。他にも元ボクシング世界チャンピオン 徳山昌守さんを始め、自由人 高橋歩さん、作家 ロバート・ハリスさんなど、名だたる著名人が大絶賛コメントを寄せている。

「そこの役者やタレントやアーティストじゃ太刀打ち出来ないよ。
コイツは素敵だぜ」
-窪塚洋介 (俳優)

「おいおい、ヨーヘイ! 実物より 100 倍絵が格好良すぎだろ!」
-GACKT (ミュージシャン)

「現役世界チャンプだった俺のもとに、調子によって道場破りにきた若僧が、シロウトだと知ったのはリングの上でのことやった。バンテージの巻き方もろくに知らないクソガキ。遠慮なくフルボッコにしてやりました。(笑) 調子にのり過ぎぐらいじゃないと、そんな挑戦できないやろ。クソガキ洋平、そのままいったれ。いてこましたれ!」
-徳山昌守 (世界戦 9 回防衛 元ボクシング世界チャンピオン)

「北里洋平は、なかなか本を書かない人間である。だから『そろそろ書こうかな』から『よし書こう!』まで、途方もなく長い時間が流れる。でもいざ書かせると、この一冊のようにとつともなく面白いものを書いてしまう才能を持っている。だから僕は彼にいう。『もっと書け、バカヤロウ』」
-ロバート・ハリス (作家)

「北里は、どうしようもない男だ。ただ、この男の持つ、唯一の力。『生命力』。これだけは、感じてみる価値がある」
-高橋歩 (自由人)

「素敵」「絵が格好良すぎるだろ!」「クソガキ」「バカヤロウ」「どうしようもない男」と悪口と愛に満ちたコメントをされている著者、北里洋平とは何者なのか? その経歴は後に譲るが、彼はまずこの物語における、諦めることを諦め、ワルあがきを続ける唯一無二の主人公である。その物語は、小学生の低学年時代に遡る。学芸会の役を選ぶホームルームで浮かびあがる、ある疑問。「主役はやりたいけど、立候補するのはなんかカッコ悪い気がする……」モヤモヤしはじめた主人公の前に、突然現れる謎の男、キング。キングは問う。「オマエは何者なんだ?」「何者になりたいんだ?」「考える。常識というツマランもんにとられるな」小学生に対しても全力でぶつかるキングとのユーモラスなやりとりを経て主人公が気付く、
【我がまを貫く大事さ】。

「10 年後、俺が大人になった時、学芸会じゃなくて、現実社会での自分の役が決まるんだ! 社長、政治家、芸術家、サラリーマン、八百屋、洋服屋、スポーツ選手。いつか社会人になるこのクラスメイトたちと一緒に、自分の本当の役を決めなきゃいけない。だとすればさ……、俺は自分がやりたい役をやる。今も。これからも。それで、10 年後、俺が大人になっても、俺は俺のやりたい役を選べばいいってことだよな?」

このヒントと気づきを武器に、主人公は学芸会の主役を勝ちとる。

その後、12 歳で南米に渡った主人公は、中学生にして世界一のサッカーチームの試合後の更衣室に忍び込み、チリ代表キャプテンに挑戦状を渡し挑んだ日を皮切りに、伝説的な秘境チロエ島での放浪。キングから教わった【5 倍の集中力】で半年間の受験勉強をクリアし慶応大学合格。大企業、日立製作所財務本部に就職を決め、在職中にナワバリを広げるために世界へ放浪し、タイ

でムエタイ選手への挑戦とリベンジの2連敗を経て、仲間が集う憧れのバーをオープンして楽しい日々を過ごす。突如ボクシング世界タイトル9度防衛のチャンピオンにも挑戦。生涯3連敗目を期したが、挑み続けた人生をもとに25歳で自伝を出版して大ヒット。結婚と第一子の誕生を機に独立し出版社を創業した先に待っていたのは……。

主人公が困難にぶちあたり、葛藤が生じるたびに出現するキング。彼の熱量の高い言葉は、現実という壁にぶつかっている全ての読者の背中を押してくれるだろう。

「諦めることを、諦めろ！ それが覚悟だ」

「本音を見せずに勉強している受験生のほとんどは、嫌だ嫌だと思いながら3年間の高校生活を勉強に費やして、そのあげく、受験も失敗するんだよ」

「5倍の集中力？ やれんのか？ やるならその世界の入り方を教える」

「先に結果さえ決めれば、夢なんてのは簡単に叶う」

「描いた夢にはオトシマエをつけるんだ」

キングに導かれるようにして、主人公は悩み、挑戦し、そして届かないようにみえた夢を叶えていく。その道のは爽やかなまでに奇想天外だ。



挑戦フェチな主人公が人生という物語を通してぶつかる様々な葛藤や問題を、キングが教えてくれるヒントを手掛かりにクリアしていく【新感覚の自己啓発書】。

無謀ともいえるこれらの夢を、主人公がどう叶えていくのか。

その方法や思考方法は一見独創的だが、

一歩踏み出しさえすれば必ず誰にでもできることなのだとも思わせられる。

「挑み残した夢」がある全ての人に手にとって欲しい、魂の一冊だ。



『ワルあがき』北里洋平 著
漫画・キャラクターデザイン たなか亜希夫
発行：NORTH VILLAGE
発売：サンクチュアリ出版

【ワルあがき 特設販売サイト】

<https://northvillage.asia/waruagaki>

アマゾンからの購入はこちら

<https://www.amazon.co.jp/dp/4861133785>

著者について

北里洋平 (きたざと ようへい)

1980年埼玉生まれ、南米チリ育ち。自伝家。

慶應義塾大学環境情報学部を卒業後、株式会社日立製作所に入社。財務本部個別決算グループに従事。会社員時代、仲間と最初のアジトとなるラウンジをOPENし、そこを拠点に処女作『若きサムライ、その声を聞け』を出版。27歳で結婚。出産を機に起業を志し、自伝中心の出版社NORTH VILLAGEを設立。三代目魚武濱田成夫、高橋歩、ロバート・ハリス、窪塚洋介、GACKTなど、自身が尊敬する著者たちの作品を出版し、数々のベストセラーを生み出す。現在は「遊べて飲める水タバコカフェ」をコンセプトに、世界中に18店舗の飲食店を経営。海外はマチュピチュやクアラルンプールでの出店など、ロマンチックな展開を求め、世界へとナワバリを広げている。また、出張買取24時(リサイクル事業)、東京アジト(不動産事業)、NORTH VILLAGE EDITORIAL STUDIO(オンラインサロン)など、旅と遊びを仕事にするスタイルで、活躍の場を拡大中。

【NORTH VILLAGE WEBSITE】

<https://northvillage.asia>

【本件に関する報道関係者からのお問合せ先】

株式会社 NORTH VILLAGE 担当：甲斐

電話：03-6809-0949 メールアドレス：info@northvillage.asia